

上智大学 ヨーロッパ研究所 2025



〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町 7-1

中央図書館・総合研究棟7階 721B

TEL: 03-3238-3902 / FAX: 03-3238-3533

<https://www.dept.sophia.ac.jp/is/ei>

E-mail: i-europe@sophia.ac.jp

利用時間

月～金 10:00 - 11:30 12:30 - 17:00
(土・日・祝日・本学休暇期間中は閉室)

ごあいさつ

上智大学 ヨーロッパ研究所所長
外国語学部ポルトガル語学科教授
市之瀬 敦



私が主な研究対象としているのはポルトガルです。リスボンに留学していたおよそ30年前、ポルトガル人がフランスやドイツに行くときに「ヨーロッパに行く」と表現していたことが印象的でした。ヨーロッパとは何か？それはどこからどこまでを指すのか？ヨーロッパ内部でも多様な見解がありうるのではないのでしょうか？

上智大学ヨーロッパ研究所は、さまざまな分野で日本に大きな影響を与えてきたヨーロッパを、高度な語学能力を駆使しながら、文学、言語、芸術、社会、歴史、思想、宗教、政治、経済などの幅広い視点から研究し、その成果を日本を起点として、日本はもちろん、ヨーロッパ、そして世界に発信することを目的の1つとしています。1年を通して開かれる講演会やシンポジウム、毎年刊行される紀要や叢書、研究のための図書資料の収集と一般利用の提供など、その活動は多岐にわたります。上智大学の叡智(=ソフィア)を担うべく、約30名の所員は日々研究を進めております。ぜひとも、本研究所の活動にご注目ください。

理念・設立目的

上智大学ヨーロッパ研究所は、2007年ドイツ語圏文化研究所を改組再編して活動を開始しました。2009年にはイスパニア研究所と統合し、研究領域をヨーロッパ全域の社会と文化に拡大しました。現在は、「政治・経済・社会」、「芸術・文化」、「言語」、「歴史」の四つの視点からヨーロッパをとらえつつ、国内外の類似の研究機関との差別化を図り、また共同研究の推進を目指しています。

■ 活動内容

国内外の専門家を招いた講演会・セミナー・シンポジウムを年間13件開催。2025年度は日仏合同シンポジウム「ジュリアン・グラックとポエジー」、講演会「文学・芸術キャバレー『シャ・ノワール』の革新と成功」、マティアス・テオドール・フォークト講演会「人はパンのみにて生きるにあらず。(マタイ4:4) ドイツの芸術と文化における教会の役割」等を開催。



■ EU 情報センター



ヨーロッパ研究の発展を促進し、地域社会に EU の情報を提供することを目的とした EU 情報センター (EUi) を設置。EU 公式刊行物の閲覧が可能なほか、パンフレットなど無料配布。毎春、日・EU フレンドシップ・ウィーク行事に参加、EU への理解を深める催しを開催している。このほか、当研究所ホームページやフェイスブックの中で、EU 代表部が発信している各種情報を紹介。

研究所の担い手

所長 市之瀬敦 (ポルトガル語圏近現代史)

副所長 松原典子 (スペイン美術史)

所員

安達祐子 (ロシアにおける企業統治・政府企業間関係)

阿出川修嘉 (現代ロシア語の aspekto の意味と用法)

秋山真一 (ロシア語学、統語論、コーパス言語学)

浅見昇吾 (外国語学部ドイツ語学科教授 / ドイツ現代思想、生命倫理)

東史彦 (法学部国際関係法学科准教授 / EU 法、イタリア法)

Desprez, Michael (16 世紀から 17 世紀にかけての演劇史)

Doñas, Antonio (イスパニア語圏の文学、思想史)

河崎健 (政治学・ドイツ政治)

川瀬剛志 (国際経済法)

木村護郎クリストフ (ヨーロッパ言語社会論)

小島真智子 (フランス外交、欧州安全保障、核不拡散問題)

小松原由理 (ドイツ現代文学、ヨーロッパ前衛芸術)

Lipsky, Angela (言語学、ドイツ語教育)

牧陽子 (社会学、ジェンダー)

三輪玲子 (ドイツ現代演劇、上演分析)

Monfort, Brieuc (経済学)

森田直子 (ヨーロッパ史、アメリカ史 / 西洋史)

永井敦子 (20 世紀フランス文学、シュルレアリスム)

中井真之 (ドイツ文学)

Neves, Mauro Jr. (比較ポップカルチャー論)

西村君代 (スペイン言語学)

小川公代 (英文学、特にロマン主義)

岡部みどり (EU 研究・国際政治学)

大田浩司 (ドイツ文学)

Peyron, Bruno (フランス自伝文学)
Saaler, Sven (日本政治史・外交史、日独関係史)
坂野正則 (フランス近世史)
Schelletter, Christopher (ドイツ文学)
高橋暁生 (フランス革命史、近代フランスの社会史)
高橋亮介 (語彙意味論、形態論、ドイツ語学)
内村俊太 (スペイン近世史)
Williams, John (映画製作、ヨーロッパ映画)
Williams, Laurence (18世紀イギリス文学、紀行文)
Zemsauer, Christian (ドイツ現代文学・文化)

客員所員

新谷崇 (イタリア近現代史)
Constantinescu, Cezar (言語政策)
伊達聖伸 (フランスを中心とするヨーロッパの政治と宗教)
Duppel, Mechthild (現代ドイツ文学、比較文学)
芳賀和恵 (アントレプレナーシップ、イノベーション、進化経済学)
久野直人 (ドイツ文学)
Hitzer, Eckhard (持続可能な社会の宗教的、思想的、科学的基礎づけ)
加藤伸吾 (スペイン現代史)
長井伸仁 (フランス近代史)
新川匠郎 (ヨーロッパ比較政治、連立研究)
西脇靖洋 (南欧政治)
Ophüls-Kashima, Reinold (現代ドイツ文化論 (ディスクール分析))
Rövekamp, Frank (経済学、日独文化比較)
豊田唯 (スペインバロック美術)
Wittig, Matthias (日本学、自伝研究)
山取圭澄 (ヨハン・ゴットフリート・ヘルダーの思想、近代ドイツにおける古代レトリックの受容)
柳田ネンシ (ドイツ語教育、自律学習、反省的学習、ポートフォリオ)
吉田元子 (国際民事手続法、ヨーロッパ文化研究)

準所員 ダウクシタチひろ (20世紀を中心としたドイツ語抒情詩)
幅野民生 (ドイツ18世紀文学、フリードリヒ・シュレーゲルの思想)
三井麻衣 (19世紀フランスの音楽と文学)
土屋朋子 (EU 研究)

名誉所員

Andreae, Gabriele / 榎本久彦 / Hamm, Heinz Toni / Hollerich, Jean-Claude / 泉邦寿 / 木村直司 / 村田真一 / 永田ザビーネ / 中井晶夫 / 中村雅治 / 大高保二郎 / 佐藤朋之 / 菅野カーリン / 若林吉彦 / 吉田有 / 吉村和明

特別研究員 河崎えり (中世哲学、神秘思想)

■ 図書



ヨーロッパ研究のための資料を、主に7つの文庫を中心に約44,000余点を所蔵し、広く一般の利用にも供している。中央図書館棟7階ヨーロッパ研究所書庫、一部ヨーロッパ研究所内に配架。学内外からWeb-OPAC検索が可能である。

ドイツ文庫

ドイツ文学やドイツ語学を中心とした文献で、宇多文庫、伊藤文庫を含む。4,200冊。

スイス文庫・米井文庫

神戸スイス領事館寄贈文献を基礎としたスイス関連の文献。毎年Pro Helvetia財団より寄贈を受けている。7,300冊。

オーストリア文庫

オーストリア大使館からの寄贈図書で、オーストリア各州の紹介と文学を中心とした文献。4,700冊。

ヨーロッパ文庫

最新の研究書や当該分野を学ぶには欠かせない概説書や学部学生向けの入門書など。900冊。

イスパニア文庫

1992年に旧スペイン大使館図書室から寄贈された図書を基礎とした、文学・歴史・言語・美術が中心のスペイン関連文献。14,000冊。

スペイン内乱文庫

本学イスパニア語学科故ソペーニャ教授により収集されたスペイン内戦関連の資料6,500冊および新聞・雑誌デジタル資料約20,000点。

ポルトガル文庫

ポルトガル政治、歴史、文化など2,400冊。

その他

スペイン音楽資料（楽譜、AV等）5,500点と映画DVD1,300点。

■ 出版



『上智ヨーロッパ研究』（年1回。特集テーマに関わる学術論文、査読付き自由投稿論文、研究ノート、書評など）

- Vol.1 「ヨーロッパ言語とアジア圏」
- Vol.2 「オーストリアの歴史と現在」
- Vol.3 「イベリア半島の文化と社会」
- Vol.4 「現代のドイツ語圏文学—20世紀から21世紀へ—」
- Vol.5 「フランス社会とキリスト教（カトリシズム）」
- Vol.6 「地中海域の政治と社会」
- Vol.7 「ヨーロッパの『東』」
- Vol.8 「ヨーロッパと宗教」
- Vol.9 「EUとヨーロッパ諸国の現在」
- Vol.10 「ヨーロッパのセクシュアリティと親密圏」
- Vol.11 「西南ヨーロッパ史における『国家と社会』」
- Vol.12 「欧州難民・移民危機の再検討」
- Vol.13 「災厄に直面してきたヨーロッパ」
- Vol.14 「ヨーロッパと戦争」
- Vol.15 「変容する世界におけるヨーロッパ」
- Vol.16 「西ヨーロッパ主要国の現在
—ポピュリズム勢力拡大の中の国内政治動向」

「上智大学ヨーロッパ研究所研究叢書」（不定期）

- 1号 ヨーロッパ統合の現状と課題
- 2号 ヨーロッパ映画における移民たち
- 3号 文学におけるモダン
- 4号 日本オーストリア交流の歴史と現在
- 5号 ヨーロッパ映画の現在
- 6号 日常的な言葉遣い—ヨーロッパの言語をめぐって
- 7号 ヨーロッパサッカーと日本
- 8号 フェリペ3世のスペイン—その歴史的意義と評価を考える
- 9号 ヨーロッパ映画における“ボーダー”
- 10号 ドイツとスイスから考える 環境・エネルギー問題へのアプローチ
- 11号 ピカソ再考
- 12号 ヨーロッパの世俗と宗教
- 13号 スラヴ語・スラヴ文学の比較対照研究—第16回国際スラヴィスト会議への日本の寄与—
- 14号 ミハイル・ブルガーコフ生誕 130周年記念企画記録—戯曲上演・アフタートーク・シンポジウム—
- 15号 ドイツ・シュルツ政権の現在—信号連立の制度・政策と政治過程—

